

◆2025年1月の新刊

日本キリスト教団出版局

聖書の基礎知識

新約・
旧約外典篇

C. ヴェスターマン／F. アーヒウス 著

J. ヴェーネルト 協力

吉田 忍 訳 明治学院大学教養教育センター専任講師

2025年
1月22日
刊行予定

新約聖書全体を鳥瞰するにはこの一冊！

新約聖書に収められた各文書はいつ、誰によって書かれ、どのような構造をもつのかなど、読む上で知っておきたい基本的な情報を凝縮。複数の文書に表れるキーワードに触れた注も読むことで、聖書をより深く理解できる。旧約聖書外典にも簡潔に触れる。

A5判・上製・224頁・定価4,400円（本体4,000円＋税）

ISBN978-4-8184-1184-5 C1016



ここが
ポイント！



- ①新約聖書に収録されている文書の構成や特徴がすっきりと分かる
- ②聖書の他の箇所（特に旧約）との関係に配慮した注は、説教準備にも役立つ
- ③翻訳が正確で読みやすい

【好評発売中】『改訂新版 聖書の基礎知識 旧約篇』C. ヴェスターマン＝著 左近 淑／大野恵正＝訳 定価4,180円

◆2025年1月の新刊

日本キリスト教団出版局

説教黙想アレテニア叢書

日本キリスト教団出版局 編

創世記 1-28章

2025年
1月23日
刊行予定



執筆陣

小友 聡／本城仰太／藤掛順一／石井佑二／橋谷英徳
高橋 誠／徳田宣義／河野行秀／浅野直樹／小泉 健
蔦田崇志／楠原博行／小副川幸孝／吉村和雄

『説教黙想アレテニア』96～97号、
および98号の一部を書籍化！

『説教黙想 アレテニア』誌に2017～18年連載された、創世記の重要単元の説教黙想を書籍化。定評ある執筆陣が、聖書の原点・信仰の原点と向き合った黙想は、説教準備にも信徒の学びにも資する。上巻は全体の序論、天地創造からヤコブ物語の「ベテルの夢」までを収録。

A5判・並製・264頁・定価3,520円（本体3,200円＋税）
ISBN978-4-8184-1186-9 C1016

【シリーズ続刊】『創世記 29-50章』 2025年2月25日刊行予定

◆2025年1月の新刊

日本キリスト教団出版局

聖書における和解の思想

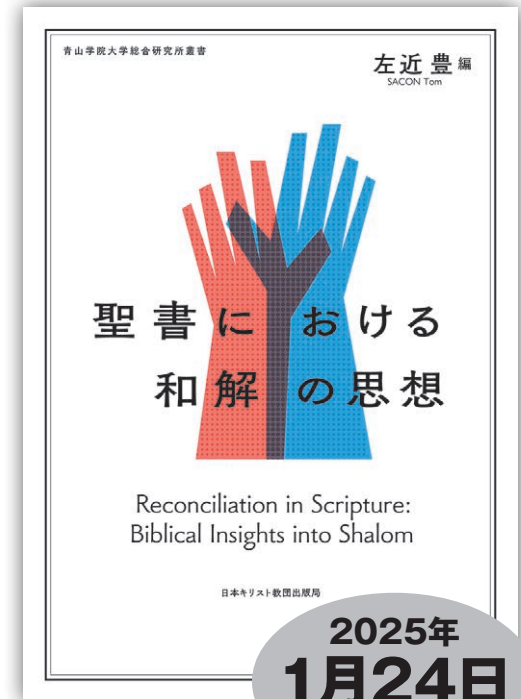
さ こん とむ
左近 豊 編

1968年、東京生まれ。東京神学大学大学院修了、米国コロンビア神学大学院修了 (Th.M.)、プリンストン神学大学院博士課程修了 (Ph.D.)。旧約聖書学専攻。現在、青山学院大学国際政治経済学部宗教主任・教授。日本基督教団美竹教会牧師。

現代世界の最重要課題について、
聖書は何を語るか？

異なる価値観をもつ人々が、いかにして「和解」による対話と共存の可能性を探りうるのか。共同体の危機のさなかで編まれた旧新約聖書は、この課題にどのように取り組んでいるか。七人の気鋭の神学者・聖書学者が集い、聖書における「和解」の思想を論じ尽くす意欲作。

A5判・上製・352頁・定価4,400円 (本体4,000円+税)
ISBN978-4-8184-1185-2 C3016



2025年
1月24日
刊行予定

目次	第1部 神学の見地から
	第1章 聖書的和解の神学的位置づけ ——キリストを通し天と地をつなぐ生き方……藤原淳賀
	第2部 旧約聖書学の見地から
	第2章 旧約聖書における「和解」序説……左近 豊
	第3章 W. ブルッゲマン教授に聞く 「和解」とは何か？
	第4章 律法における「和解」——創世記20章を手掛かりに……藤田潤一郎
	第5章 預言書と諸書における「和解」……左近 豊
	第6章 研究ノート 旧約聖書における「和解」の語彙に関する試論……左近 豊

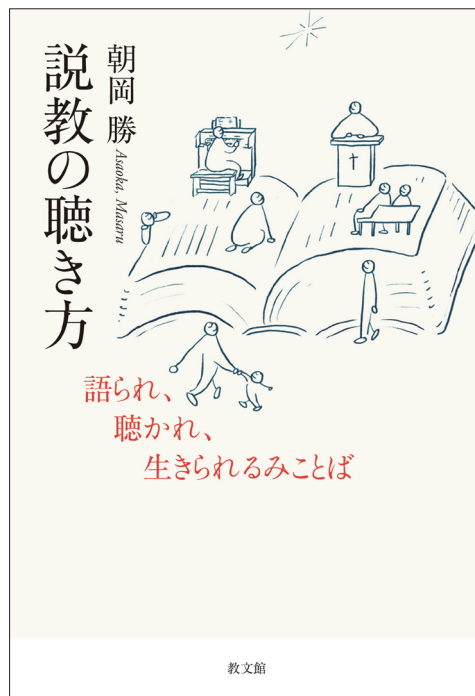
第3部 新約聖書学の見地から
第7章 神による「愛敵」としての和解 ——パウロの和解理解をめぐる聖書神学的考察 ……河野克也
第8章 パウロの「和解」主題……浅野淳博
第9章 誰と誰の和解か？ ——パウロ的「和解」概念の発展と継承……辻 学
第10章 福音書における「和解」……大宮 謙
第11章 パウロの「和解」理解の継承と課題……河野克也
おわりに 聖書的和解のために……藤原淳賀



説教の聴き方

語られ、聴かれ、生きられるみことば

朝岡 勝❖著



「説教で満たされない……」と悩む**信徒**たちへ

「説教が伝わらない……」と悩む**牧師**たちへ

説教の語り手と聴き手のあいだに、なぜ「ズレ」や「すれ違い」が生まれるのでしょうか？
どうすれば、お互いの信頼関係を取り戻すことができるのでしょうか？
牧師と信徒が「説教」をめぐる対話をするための心得を磨く11章。

「私の願いは、このような幸いな説教聴聞の経験を一人でも多くの方が経験して下さることです。そのために、この拙い本が何かのきっかけとなって、教会でみことばの語り手と聴き手がともに学び合うような機会が増えること、そしてみことばの語り手である説教者がますます確信をもって神のみことばを生き生きと語るようになり、みことばの聴き手たちがますますみことばのいのちに養われ、力を得て新しい日々遣わされていき、そのようにして語られたみことばが、聴かれ、生きられるみことばとして力を発揮することが起これば幸いです。」(「あとがき」より)

❖著者紹介 朝岡 勝 (あさおか・まさる) 1968年生まれ。東京基督教短期大学、神戸改革派神学校卒業。日本同盟基督教団西大寺キリスト教会、東岡山キリスト教会、徳丸町キリスト教会牧師、東京キリスト教学園理事長・学園長を経て、現在、市原平安教会牧師。著書 『教会に生きる喜び』、『大いに喜んで』、『聞き書き 加藤常昭』(共著)、『香港の民主化運動と信教の自由』(共著)、『夜明けを共に待ちながら』(共編著) (以上、教文館) ほか多数。

四六判・並製・216頁・定価1,980円(本体1,800円+税) ISBN978-4-7642-6184-6 C0016

宮城学院に連なる人々

ドイツ改革派の理念の継承

佐々木哲夫 編著

学院創設の土台を見据える

合衆国ドイツ改革派教会による宮城女学校の設立（1886年）以来130年を超える歴史を有する宮城学院。キリスト教信仰に基づく建学の精神は今日までどのように受け継がれてきたのか。学院揺籃期の生徒・卒業生の進取の気性に富む実像が窺える論考集。

はじめに——学院の土台

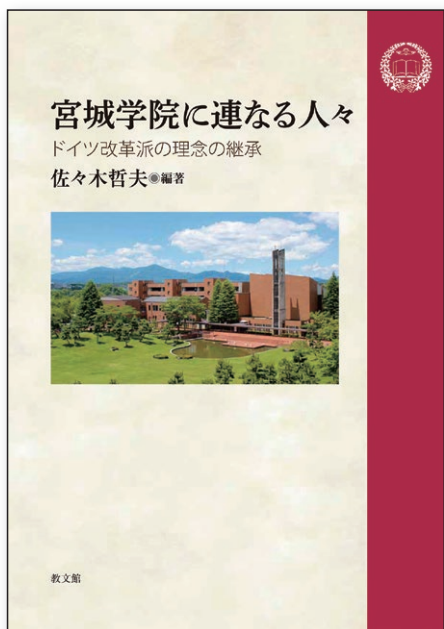
- 1 理念の継承——ドイツ改革派教会と宮城学院（佐々木哲夫）
 - 2 資料室の使命——宮城女学校第七回生（佐々木哲夫）
 - 3 宮城女学校第七回生の夫たち——顔写真特定と目歯比率（佐藤亜紀）
 - 4 バイブル・ウーマンの活動（サディ・リー・ワイドナー、飯塚久榮訳）
 - 5 明治期における宮城女学校バイブル・ウーマンの活動——明治後期の年次報告から（栗原 健）
 - 6 『橄欖』成立の歴史とそこに見る生徒の「自主」（小羽田誠治）
 - 7 あらたなる希望の花を胸に秘め——宮城女学校生徒による短歌の世界（栗原 健）
 - 8 宮城学院と「初週祈禱会」——押川方義を介して（松本 周）
 - 9 宮城学院中学校高等学校墓前礼拝（大久保直樹）
- おわりに——私立キリスト教学校（大学）を思う

《編著者紹介》

佐々木哲夫（ささき・てつお）

1949年生まれ。

宮城学院理事長・学院長、
宗教総主事。日本基督教団
正教師。東北学院大学名誉
教授。東北学院元院長。



新教出版社 新刊案内 2025年1月24日発売

倫理 DBW版新訳

[著] デイトリヒ・ボンヘッファー

[訳] 宮田光雄 (監訳)、村松恵二、本田逸夫、小嶋大造、星野 修

四六判・上製・820頁・本体6300円 (税込定価6930円)

ISBN 978-4-400-40305-0 C1016



ライフワークの完全新訳、待望の刊行

ボンヘッファーがライフワークとして取り組み、秘密警察による逮捕と刑死によってついに未完に終わった倫理学。

長らく森野善右衛門訳『現代キリスト教倫理』として読み継がれてきたが、ここに新版ボンヘッファー全集第6巻 (DBW6) に基づく全く新たな訳が完成。

ナチの監視下に慌ただしく書き継がれた草稿を徹底的な校訂によって成立年代順に再構成し、膨大な脚注を付したDBW版は、著者の構想を余すところなく明かにし、キリスト教倫理の可能性を鮮やかに指し示す。

宮田光雄＝東北大学名誉教授、村松恵二＝弘前大学名誉教授、本田逸夫＝九州工業大学名誉教授、小嶋大造＝東京大学教授、星野 修＝山形大学名誉教授

【目次より】

編集者まえがき

キリスト・現実・善——キリスト・教会・この世
形成としての倫理学

遺産と退場

罪責・義認・新生

〈究極的なもの〉と〈究極以前のもの〉

〈自然的生〉

歴史と善 (第一草稿)

歴史と善 (第二草稿)

神の愛とこの世の崩壊

教会と〈この世〉 I

この世に向けた教会の言葉の可能性について

主題としての《倫理的事象》と《キリスト教的な事象》

具体的な戒めと神の委任

編集者あとがき

新教出版社 新刊案内 2025年1月24日発売

平和の福音に生きる教会の宣言

日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説

吉田隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川慎 [共著]

小B6判・並製・119頁・本体900円（税込定価990円）

ISBN 978-4-400-40761-4 C1016

戦火の絶えぬ現代世界で 教会はいかなる宣教をなすべきか

改革派教会は、2023年の大会で「平和宣言」を採択した。

この宣言は、今日と将来の教会がこの世に対して果たすべき責任を
「平和をつくる、という視点から積極的に展開する。

本書は、この宣言が日本の教界で広く共有され、教会における学び
の素材とされることを願って、本文と共に懇切な解説を施した。

吉田 隆＝甲子園伝道所宣教教師、神戸改革派神学校校長

長谷部弘＝東北大学名誉教授、宮城学院女子大学学長

弓矢健児＝西神教会牧師

豊川 慎＝関東学院大学准教授

平和の福音に生きる教会の宣言
日本キリスト改革派教会「平和宣言」と解説



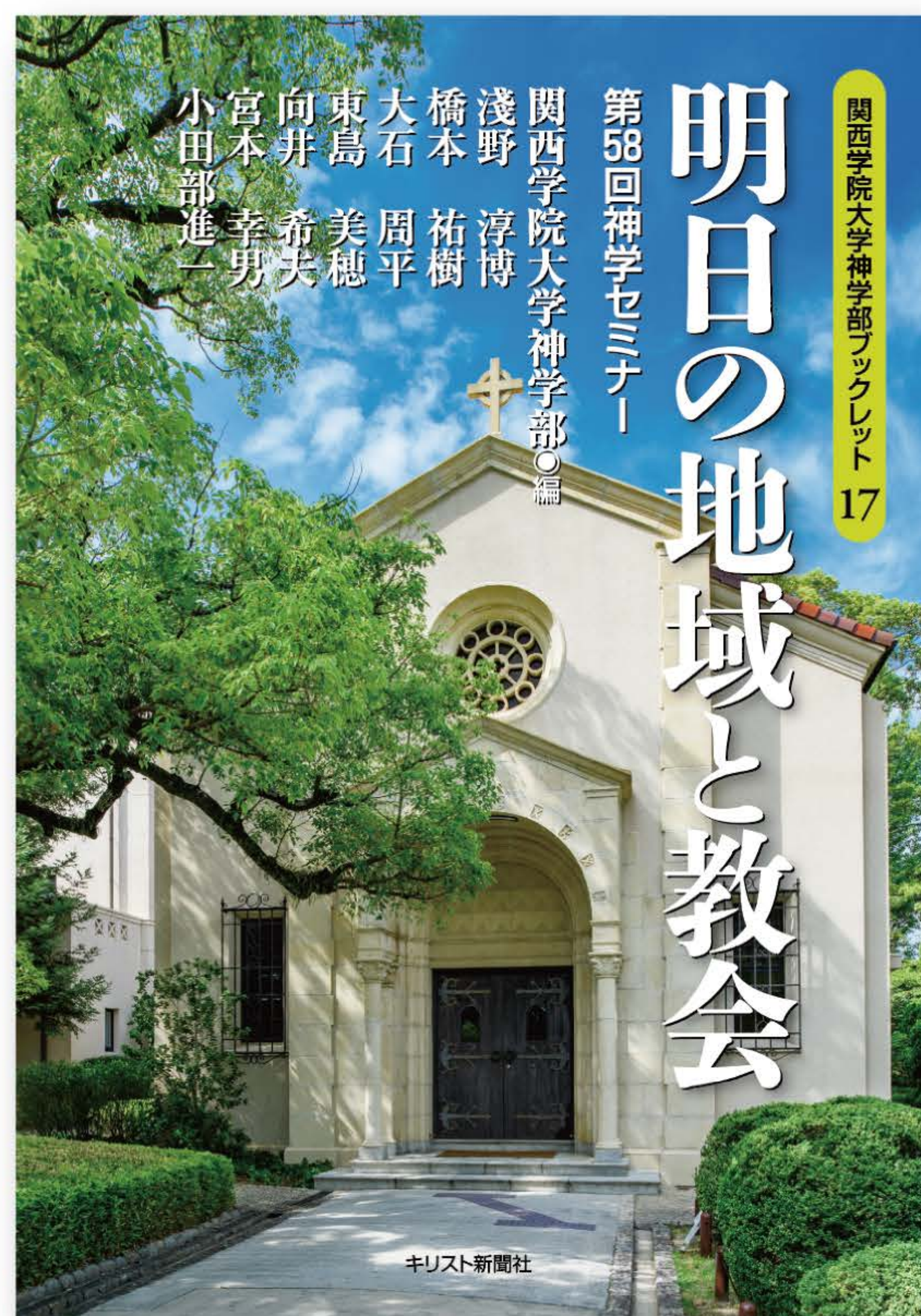
吉田 隆、長谷部弘、弓矢健児、豊川 慎 [著]

新教出版社

関西学院大学神学部ブックレット17

関西学院大学神学部◎編

明日の地域と教会 第58回セミナー



コロナ禍は、21世紀にますます深刻化する高齢化と少子化、経済格差と貧困、地域コミュニティの崩壊と人々の孤立や不安といった社会の諸問題をよりいっそう浮き彫りにした。これらの問題は、地域により具体的な様相は異なるが、地域の中にある教会が直面している課題でもある。

地域と共に歩む中で、教派を問わず、教会間の連携や合同、地域との連携等が模索されているが、本書では、神学的な視点、個々の教会の現場の視点、そしてエキュメニカルな意見交換を通して地域における教会の課題を様々な角度から捉え、明日の地域と教会についてともに考える。

目次

- 神学講演「コリント教会の会食問題と地域社会」(浅野淳博／関西学院大学神学部教授)
- 神学講演「明日の地域と教会—現代宣教学の視点から」(橋本祐樹／関西学院大学神学部准教授)
- 招待講演「明日の地域と教会—多摩地域の事例から」(大石周平／日本キリスト教会多摩地域教会牧師)
- パネルディスカッション
- I 現場報告「大阪城北教会の現場から」(東島美穂／日本基督教団大阪城北教会牧師)
「広島流川教会の現場から」(向井希夫／日本基督教団広島流川教会牧師)
「香櫨園教会の現場から」(宮本幸男／日本基督教団香櫨園教会牧師)
- II ディスカッション(東島美穂、向井希夫、宮本幸男、小田部進一／関西学院大学神学部教授、橋本祐樹、森本典子／関西学院大学神学部専任講師)

12月9日(月)発売

 サンパウロ 新刊案内



ローマの教会巡礼ガイド

ECCLESIA RV M ROMANAR VM DESCRIPTIO

高久 充 著

カトリック教会において、2025年は25年に一度の「聖年」と呼ばれる年である。2024年12月24日、教皇フランシスコによって、バチカンの聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」が開かれ、全世界で「聖年」が始まる。それは大いなる恵みの年の始まりである。

教皇フランシスコは、2025年の通常聖年公布の大勅書の中で、「すべての人にとって聖年が、救いの『門』である主イエスとの、生き生きとした個人的な出会いの時となりますように」と書いている。「聖年」は、キリスト教の中心であるローマの教会を訪れるのに絶好のチャンスでもある。本書は、写真と地図を多用し、77に及ぶローマの教会、5カ所のカタコンベを詳しく紹介する巡礼者必携の書である。

著書

『移動する聖所—エマウスの歴史の変遷』（豊田浩志編著『神は細部に宿り給う—上智大学西洋古代史の20年』南窓社、2008年所収）／『ポルトガル・トルレ・ド・トンボ国立公文書館所蔵「モンスーン文書」の研究と目録（vol.1-vol.30）』（研究分担者・岡美穂子、東京大学史料編纂所、2019年、共著）／『聖地巡礼ガイド—イエス・キリストの足跡をたどる』（サンパウロ、2020年）がある。

著者略歴

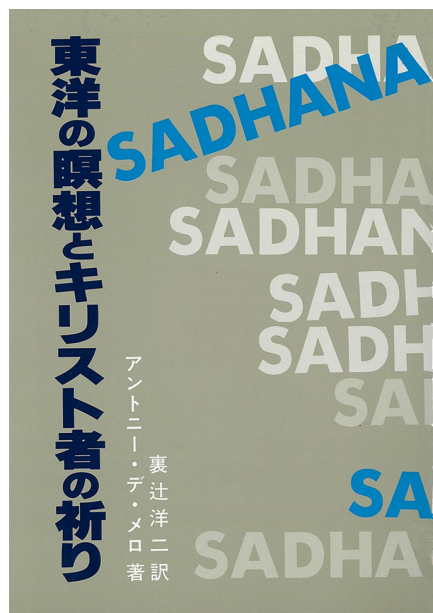
高久 充 (たかく みつる)

1978年 茨城県生まれ。
2000年 筑波大学第一学群人文学類（ヨーロッパ史）卒業。
2003年 上智大学文学研究科史学専攻博士前期課程（西洋史）修了。
2006年 教皇庁立グレゴリアナ大学教会史学部修士課程修了。
2012年 上智大学文学研究科史学専攻博士後期課程（西洋史）単位取得退学。
2019年9月 教皇庁立グレゴリアナ大学教会史学部博士課程単位取得退学。
2016年から2024年まで東京大学史料編纂所学術専門職員。
現在 翻訳者、イエスのカリタス修道女会東京歴史記録保管所顧問、東京YMCA国際ホテル専門学校非常勤講師（イタリア語）。

訳書

「ピウス2世『覚え書第八巻』」（池上俊一監修『原典イタリア・ルネサンス人文主義』名古屋大学出版会、2010年所収）／使徒座裁判所ローマ控訴院『自発教令「寛容な裁判官、主イエス」適用のための手引』（教友社、2016年、共訳）／田中昇編『カトリック教会における婚姻—司牧の課題と指針—』（教友社、2017年、共訳）／田中昇編『カトリック教会の婚姻無効訴訟—ローマ控訴院の判例とその適用』（フリープレス、2020年、共訳）／阿部仲麻呂・田中昇編『カトリック教会は刷新できるか』（教友社、2023年、共訳）／教皇庁保健医療従事者評議会『生命倫理についての新しい指針—いのちと健康に奉仕するすべての人に向けて』（社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院監修、インターメディカ、2024年、共訳）などがある。
霊名はピオ（教皇ピウス1世）。2004年より2013年までローマ・カトリック日本人会世話役を務めた。

• A5判 • 350頁 • 並製 • 定価 3,080円（本体2,800円+税） • ISBN978-4-8056-9614-9 C0026



待望の重版出来!

東洋の瞑想とキリスト者の祈り

心と体を静め、深く集中し、直観能力も育みながら祈る「サダナ」(神への道の意)と呼ばれる祈りの実践的手引書。

祈りを深めたい方や祈りの指導者だけでなく、どう祈ったらよいか模索中の方にもお薦めます。

著 **アントニー・デ・メロ**

イエズス会司祭。

1931年ボンベイ生まれ。スペインで哲学、アメリカで心理学を学び、インドに帰って東洋と西洋の霊性の統合、心理学とイグナチオ的霊性の統合を試み、司牧カウンセリング研究所「SADANA(サダナ)」を主宰。多くの国で黙想指導、祈りのセミナーを開く。1987年米国で客死。

主な邦訳著書に『何を、どう祈ればいいのか』、『ひとりきりのとき人は愛することができる』、『心の泉』、『沈黙の泉』(女子パウロ会)がある。

訳 **裏辻 洋二**

知覚を意識する

沈黙、この豊かなるもの/体を知覚する、思考をコントロールする/呼吸を知覚する/息、神の現存/息をとおして神と交流する/体を静める/体で祈る/神に触れる/音と観想/集中、自己を意識する/被造界を意識する/他

幻想を用いて祈る

幻想から現実へ、現実から幻想へ/祈りの場所/ガリラヤへ帰る/人生、この喜ばしい秘義/人生、この悲嘆に満ちた秘義/憤慨からの離脱/イエスに椅子を/イグナチオ・ロヨラの観想/象徴的幻想/心の痛手、その癒やし/生命、その真価/向こう側から人生を見る/体よ、さようなら/過去を意識する/未来を意識する/他者を意識する/他

心で祈る

ベネディクトの祈り/口で祈る/イエスのみ名を祈る/神のみ名を祈る/あなたを見つめるイエスに祈る/キリストの愛に自己を委ねる/イエスのみ名、イエスへ導くもの/とりなしの祈り/嘆願の祈り/イエスのみ名、救いの力/イエス語録で祈る/祈りと聖なる望み/賛美の祈り/他

定価1,870円(本体1,700円+税) B6判 230頁 並製 ISBN978-4-7896-0048-4 C1016